

## SR-S748TC1 V13.09 変更内容一覧

### □修正内容

No.	影響範囲	内容
1	V13.02～V13.07	装置起動時にFAN異常/温度異常以外のハードエラーが発生した場合、その後にハードエラーが発生してもエラーログがFLASHに格納されない。
2	V13.00～V13.07	リンクアグリゲーショングループにポート間アクセス制御機能を併用した場合、ポート間アクセス制御機能が正常に動作しない。
3	V13.06～V13.07	10ギガポートを10GBASE-CR SFP+ ケーブル(Twinaxケーブル)で接続した際、接続可能な機器および接続ケーブルの組み合わせにも関わらずリンクアップしない場合がある。
4	V13.00～V13.07	telnetでログイン中にコンソールでログインするとtelnetが強制切断されるが、それ以降コンソールのautologout機能およびCTRL+Cによるコマンド中断機能が動作しない
5	V13.00～V13.07	レイヤ4情報が存在しない先頭以外のフラグメントパケットがフィルタリング機能により不正に破棄される場合がある。
6	V13.00～V13.07	ARP認証機能を使用する装置でシステムハングが発生する場合がある。
7	V13.00～V13.07	LLDPの管理アドレス情報(Management Address)として、設定したSNMPエージェントアドレスが表示されない
8	V13.00～V13.07	外部メディアスタート機能が無効設定にも関わらず動作する場合がある。
9	V13.00～V13.07	IGMPスヌープ機能を動的定義変更にて有効にした場合、Querier動作モードが無効設定にも関わらず有効となる場合がある。
10	V13.00～V13.07	etherL3監視機能を併用した場合、無線LAN管理機能の状態表示コマンドの実行開始が数秒～2分程度遅れる場合がある。
11	V13.00～V13.07	ipv6 ospfを有効にしたetherポートのonline/offlineを繰り返すと、装置が再起動する場合がある。
12	V13.00～V13.07	ルータからプレフィックス情報を含むRAを受信しても、そのプレフィックス情報を破棄する場合がある。
13	V13.00～V13.07	外部経路が存在する環境でshow ip ospf routeコマンドを投入すると、装置が再起動する場合がある。